



他人事ではない～教員不足問題～

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

早いもので、今週をもって1学期が終了します。PTA総会をはじめ、環境整備作業や運動会など、様々な場面で保護者や地域の皆さんに支えていただき、無事に1学期を終えることができそうです。改めて保護者、地域の皆さんに感謝を申し上げます。

さて、6月30日の北海道新聞に「期限付きの教員、小中で不足傾向」という見出しの記事が掲載されていました。「釧路市内のある中学校の教員が病気で長期に渡り休むことになり、代替教員を全道で募集しましたが見付からず、現在は市内複数の学校が教員を交代で派遣し授業をしている」という内容でした。

この状況は釧路市内だけに限ったことではなく、実は現在、全国の学校で教員不足の問題が深刻になっています。文部科学省は1月31日に、全国の公立学校のうち「1,897校」が昨年度（2021年度）の始業式時点で、産休などで欠けた教員の代役となる「臨時教員」（常勤講師）を補充できず、「2,558人」の教員不足が発生していたと発表しました。文部科学省が「教員不足」について全国調査をするのは初めてのことで、学級担任がいないため、校長ら学校運営全体を担う管理職が代役をこなす事例も報告され、深刻な実態が浮き彫りになりました。各校種による始業日時点の欠員は次の通りです。なお、小学校の学級担任に限れば、始業日に「367校」で「474人」が欠員だったそうです。

小学校	937校 1,218人 (4.9%)	高等学校	169校 217人 (4.8%)	※全国のほぼ全ての公立小・中学校、高等学校、特別支援学校の計32,903校を対象に実施
中学校	649校 868人 (7.0%)	特別支援学校	142校 255人 (13.1%)	

【「教員不足」に関する実態調査（文部科学省）】

教員になるためには、教員免許を取得する必要がありますが、その状況はどうなっているのでしょうか。また、教員採用試験の状況はどうなっているのでしょうか。

文部科学省が実施している「教員免許状授与件数等調査」によると、2019年度の教員免許授与件数は、小学校では約2万8千件、中学校では約4万6千件であり、教職課程の授業を受けて、教育実習なども体験している層が、こんなにたくさんいることが分かります。

ところが、免許取得者のうち、教員採用試験に進むのは、その中の一部です。2019年度に実施された教員採用試験の受検者のうち、新規学卒者は、小学校で約1万7千人、中学校で約1万4千人です。単純計算すると、小学校では約1万人、中学校では約3万人も教員採用試験に進まず、取り逃している可能性があります。

では、苦勞して教員免許を取得したのに、なぜ教員採用試験を受けないのでしょうか。大きな要因の一つになっているのは、学校の多忙過ぎる実情だと思います。日本若者協議会が大学生にアンケートを実施したところ、教員志望の学生が減っている理由として、ほとんどの学生が「長時間労働など過酷な労働環境」をあげました。つまり、生き生きと働き続けられる職場かどうか問われているのだと思います。

「教員不足問題」、本校にとっても決して他人事ではありません。